

これまでの取組みと本県を取巻く社会経済情勢の変化

- 1 これまでの主な取組み・成果
- 立ち遅れていた社会資本の整備を進め、県民生活や産業基盤を充実
 - 整備した社会資本を活用した県民生活の質の向上や地域産業の振興に向けたソフト施策を重点的に展開
- ▼
- ・北上川流域を中心とした自動車産業の集積
 - ・「結いの精神」を生かしたご近所介護ステーション、いわて型ペレットストーブなど、地域に潜在する資源に新しい価値を吹き込む取組みの普及 など
- 2 本県を取り巻く社会経済情勢の変化
- ・ グローバル化の進展
 - ・ 人口減少、超高齢社会への移行
 - ・ 地域コミュニティの変容
 - ・ 地方分権改革の進展

本県の現状と今後の課題

- 1 本県の現状（本県が直面する危機）
- ・ 回復が遅れている県民所得・雇用情勢
 - ・ 歯止めがかからない人口流出
 - ・ 全国との格差が拡大する医師数
 - ・ 財政状況の逼迫
- 2 今後の課題
- 地方分権が大きな流れとなる中、地域の自立を実現していくため、
- ① 力強い産業経済基盤の構築
ものづくり産業の集積促進、農林水産業や食産業、観光産業を総合産業として育てていく必要
 - ② 安全・安心な暮らしを支えるセーフティネットの充実
医療資源の地域偏在の解消、子育て環境や高齢者介護、防災・防犯など、地域力を生かしたセーフティネットの構築が重要
 - ③ 県北・沿岸圏域の振興
優れた資源を生かした産業振興、地域医療の確保など、安心・安全な生活の確保に向けた環境整備が必要

「新しい地域経営の計画(案)」の概要

取り組みの視点

地域経営の基本的考え方

県民、企業、NPO、行政など地域社会を構成するすべての主体の総力を結集し、歴史的・文化的・経済的・人的資源など地域資源を最大限に活用しながら、地域の個性や特色を生かした取組みを展開することにより、地域の価値を高めていく

「県民一人ひとりが確かな『希望』を抱く県土づくり」

重点目標

県民の所得と雇用、安心な暮らしを守る

(県民所得の向上、雇用環境の改善、人口転出への歯止め、地域医療の確保)

危機を希望に変える2つの基本戦略

新地域主義戦略

4広域振興圏を明確な顔をもった圏域として進化させるとともに、地域コミュニティの機能を強化

岩手ソフトパワー戦略

岩手の文化や岩手の心を積極的に発信し、国内外に定着させることにより、岩手の文化的魅力や道義的信頼を高める

【政策編】

政策の6本の柱

I 地域に根ざし世界に挑む産業の育成

III 「共に生きる岩手」の実現

II 日本の食を守る「食料供給基地岩手」の確立

IV 総合的な防災対策と危機管理の徹底

V 「ふるさとづくり」を担う人材の育成

VI 世界に誇れる「岩手の環境」の実現

基盤

社会資本の整備、情報基盤の整備、公共交通の維持

【地域編】

県央

都市と農山村が広域的に連携し合いながら北東北の拠点としての機能を担う地域

県北

八戸圏域等との交流・連携を深めながら培われた知恵・文化を新たな取組みに生かす活力みなぎる地域

県南

「連携」と「協働」により、地域の資源を生かしながら世界に誇れる岩手をリードする地域

沿岸

三陸から世界へはばたく産業が躍動し、海陸の交流拠点としての機能を担う地域

【改革編】

<県民本位の分権改革>

改革I 県と市町村の役割分担の再構築

改革II 民間力・地域力が最大限に発揮される仕組みづくり

<行財政基盤の強化に向けた改革>

改革III 組織パフォーマンスの向上

改革IV 行財政構造の徹底した簡素・効率化

改革V

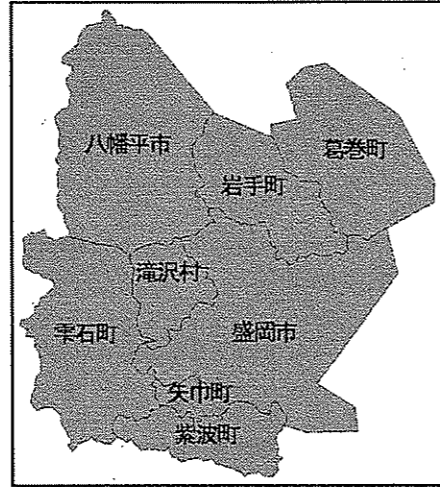
新しい地域経営の計画【地域編】（県央広域振興圏）の概要

圏域の目指す将来像

都市と農山村が広域的に連携し合いながら 北東北の拠点としての機能を担う地域

現状

- 県央広域振興圏は、西端は奥羽山脈を境に秋田県と、北端は青森県と接しており、北東北三県のほぼ中央に位置しています。
- 県都盛岡市を中心に、高度医療施設、教養文化施設などの高次の都市機能や、大学、試験研究機関などの学術研究機能が集積しています。



- 岩手山、八幡平や平庭高原などの優れた自然景観、豊富な温泉資源、歴史と伝統ある街並み景観を活かした観光や、全国的なブランドを確立している農業が展開しています。
圏域内の各地域では、地熱、風力、太陽光やバイオマスなどの多様な新エネルギーの導入が図られています。

将来展望

- 盛岡南新都市開発等による新たな都市機能の集積とともに、活力ある農山村との広域的な連携により、北東北の拠点圏域にふさわしい「職・住・遊・学」近接の魅力ある圏域の形成が期待されています。
- 県内はもとより北東北三県における広域観光や産業・経済活動の拠点として、「人、もの、情報」の交流拠点としての役割は、益々高まっていくものと期待されています。
- このような地域の現状と将来展望を踏まえ、地域の方々やNPO、市町村、県が「圏域の目指す将来像」を共有し、自立した広域振興圏の確立を目指します。

(参考) 統計データ

区分		県央 ()は構成比		県計
面積 (km ²)	H18.10	3,641.90	(23.8)	15,278.77
人口 (人)	H18.10	487,801	(35.5)	1,374,699
一人当たりの対内村民所得 (千円)	H16	2,732		2,370
市町村内純生産 (億円)	H16	12,637	(36.7)	34,452
	第一次産業	263	(22.2)	1,185
	第二次産業	1,923	(22.4)	8,594
	第三次産業	10,451	(42.4)	24,672

圏域の基本方向と重点施策

「圏域の目指す将来像」の実現に向けて、平成19年度から22年度までの4ヵ年において、次の2つの基本方向に基づく8つの重点施策について取り組んでいきます。

特に、盛岡市を中心とする都市部や周辺農山村など、それぞれの地域特性に応じた振興施策に取り組んでいきます。

I 地域の自立を支える地域経済基盤の確立

- 大学や試験研究機関など学術研究機能の集積を活かしたIT産業、ものづくり産業の創出や、農林産物などの地域資源を活かした地場産業の振興を図っていきます。
- 岩手山麓、八幡平・安比エリアにおける優れた自然、豊富な温泉資源を活かした滞在型観光や、地域ブランドの強化による市場競争力のある農林業の展開とともに、産業経済活動を支える社会資本の整備を図っていきます。

重点施策

- 1 学術研究機能の集積を活かした新産業の創出と地場産業の振興
① IT産業、ものづくり産業 ② 地場産業
- 2 産業と地域のネットワーク化による滞在型観光の振興
- 3 地域ブランドの強化による競争力に優れた農林業の振興
① 農業 ② 林業
- 4 産業経済活動、地域間交流を支える社会資本の整備

II 快適で安全・安心な地域社会の形成

- 子どもから高齢者まで安心して健やかに暮らせる保健、医療、福祉の充実を図るとともに、岩手山、八幡平や北上川などの恵まれた自然と共生する、環境への負荷の少ない循環型地域社会を創造していきます。
- 県都盛岡市を中心に北東北の拠点にふさわしい都市環境、生活環境や、住民の生命と財産を守る防災施設等の整備による、快適で安全な地域社会を形成していきます。

重点施策

- 5 安心して健やかな暮らしを支える保健、医療、福祉の充実
① 健康づくり、地域医療
② 地域生活支援、少子化対策
- 6 環境への負荷の少ない循環型地域社会の創造
- 7 北東北の拠点にふさわしい都市環境、生活環境の充実
- 8 住民の生命と財産を守る防災施設等の整備